



東郷湖羽合臨海公園

パークビジョン



2023年7月

鳥取県生活環境部緑豊かな自然課

目 次

	頁
はじめに	1
第1章 背景	
1 公園を取り巻く状況	2
第2章 東郷湖羽合臨海公園の現状	
1 東郷湖羽合臨海公園の概要	9
2 利用状況	11
3 公園施設に要する経費	12
第3章 東郷湖羽合臨海公園の目指す姿	
1 基本方針	13
2 向こう10年間を見据えた主な目標（公園の目指す姿）	14
（1）東郷池北エリア（南谷、藤津、浅津）	18
（2）東郷池南エリア（引地、長和田）	21
（3）日本海エリア（宇野、はわい長瀬）	23
（4）公園全体での取組	24
（参考）	
・公園周辺の見どころ	
・東郷湖羽合臨海公園パークビジョン検討会	

はじめに

東郷湖羽合臨海公園は、湖沼、海浜、温泉等観光・レクリエーション資源に恵まれ、風光明媚な立地を活かし、県民の憩いの場となる広域公園として昭和 47 年 12 月に都市計画決定され、その後、昭和 49 年 1 月に策定された「東郷湖羽合臨海公園(広域公園)基本計画」等に基づき整備が進められました。

昭和 54 年 10 月に藤津地区、浅津地区を開園して以降、順次整備を行い、平成 15 年 4 月の長和田地区の開園により現在の公園の姿となりました。その間には、中国河北省との友好提携 5 周年を記念した全国でも珍しい本格的な中国庭園である燕趙園が引地地区に建設され、鳥取県中部の観光スポットの一つとして開園し、賑わいを見せていました。

本公園は豊かな自然環境や風光明媚な景観を有する公園として、あるいはレクリエーション、観光、学びの拠点として利用されている一方、利用者の減少、施設の老朽化などが課題となってきました。

今日、世界的な気候変動や人口減少・超高齢化時代の到来、そして令和に入り世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響による新しい生活様式への対応、アフターコロナ、ウィズコロナなど、社会情勢や人々の価値観が変化している中で、広域公園が果たすべき役割はますます重要なものとなっており、公園のポテンシャルを最大限に引き出すことが必要となっています。

また、平成 28 年 5 月には国土交通省において「新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について」が公表され、今後の都市公園のあり方について新たな方向性が示されるなど、公園機能を一層発揮させる動きが高まってきました。

こうした中、喫緊の課題である施設の老朽化については、限られた財源の中で施設サービスを提供し続けるために、公園内の各施設・設備の安全性と必要な機能を確保するなど適切なサービス水準は維持しながら、維持管理費及び更新費の縮減も意識した整備を行い、併せて、東郷池周辺エリアの魅力を発信し、公園の認知度向上、民間との連携の加速、公園の柔軟な使い方による利用の活性化などソフト面の充実を図ることも必要と考えました。

この度、今後さらに中長期的な視点で豊かな自然環境を有する県民共有の財産として、広域公園を守り、育てていくことを改めて認識し、この将来ビジョンを策定することとしました。本ビジョンでは、湖・山・海浜などの風光明媚な豊かな自然を活かして、今後の新たな 10 年間を見据えた「公園が目指すべき姿」、それに向けた取組方針、基本的なコンセプト等を定めました。

なお、本ビジョンは継続的に見直し・改善を図るとともに、社会情勢の変化等への対応が必要となった場合には柔軟に必要な事項等について再検討を行っていきます。